



〒192-8508 東京都八王子市宮下町 476 Tel 042-691-0011 (代表) Fax 042-691-8617 (共用) email: jimujsthe.org

◇編集・発行人 川村学園女子大学 丹治朋子 email: tantomo@gmail.com ◇学会 URL <http://jsthe.org>

News Letter 2011 No.2

日本観光ホスピタリティ教育学会学会報

通巻 第28号 発行 2011年11月22日

◇学会事務局：杏林大学外国語学部 古本泰之、野口洋平

【日本観光ホスピタリティ教育学会 第11回全国大会のご案内 (第1報)】

東日本大震災の影響は、地震発生から8ヶ月以上が経過した現在でも一部で収束の見通しが立たず、教育現場においても様々な形での取り組みが求められています。

そこで、今年度は、「東日本大震災と観光ホスピタリティ教育」をテーマにして、2012年3月3日(土)、4日(日)に、全国大会を実施いたします。昨年度の大会でご好評いただいた、ワークショップの話題提供を拡充し、大学等のパンフレット展示も再び実施する予定です。パンフレット展示に関しましては、会員の皆様にご協力をお願いすることがあるかと存じます。1月に各校宛に依頼文書を送付いたしますので、その節はよろしく願いいたします。

なお、大会プログラムの詳細と参加申し込み書類は1月にお届けする予定です。一人でも多くの皆様のご参加をお待ちしております。

1 大会概要

(1) 開催日 2012年3月3日(土)～4日(日)

(2) 開催地 立教大学 新座キャンパス

〒352-8558 埼玉県新座市北野 1-2-26

(3) プログラム概要

<3月3日(土)>

11:00～12:30 理事会

12:30～ 受付

13:00～ 開会式

13:05～14:05 基調講演

「東日本大震災からの復興と観光人材育成(仮)」

最明 仁 氏(JR 東日本総合企画本部観光戦略室長)

14:15～16:00 シンポジウム

「東日本大震災と観光ホスピタリティ教育(仮)」

モデレーター 村上和夫氏(立教大学観光学部長)

パネリスト 人選中

16:00～16:15 学生報告

「被災地支援ボランティアツアーに参加して(仮)」

16:30～18:00 研究発表・教育実践報告

18:40～ 懇親会

<3月4日(日)>

9:20～ 受付

9:30～10:30 ワークショップ話題提供

「フィールドワーク(学外活動)と危機管理(仮)」

先本将人氏(ジェイアイ傷害火災保険)

10:40～12:10 ワークショップ

「フィールドワーク(学外活動)と危機管理(仮)」

12:10～13:10 休憩

13:10～14:10 ワークショップ報告

14:10～14:15 閉会式

※3月3日(土)は、日本学生観光連盟の総会・企画が同時開催されます。

※プログラムの内容・時間等を変更することがあります。

2 研究・教育実践発表の募集について

研究・教育実践論文および教育実践報告の発表者を募集いたします。いずれも、会員または会員を含む連名による発表が条件です。希望される方は、同

封の募集要項（全国大会様式 1）と執筆要項（全国大会様式 2）をご覧の上、応募用紙（全国大会様式 3）に必要事項を記入し、電子メールまたは郵送にて、2012 年 1 月 16 日（月）までに発表登録をお願いいたします。

その後、執筆要領に従って原稿を作成し、2 月 10 日（金）までに e-mail または郵送にて提出していただきます。

発表査読は行いませんが、内容・様式に著しく問題がある場合は、発表を認めない場合があります。研究発表論文集製本費用（5,000 円）は大会当日にお支払いいただきます。あらかじめご了承ください。

※応募締切 2012.1.16（月）必着

※発表論文完成稿締切 2012.2.10（金）必着

<発表申し込み先>

川村学園女子大学生生活創造学部観光文化学科

日本観光ホスピタリティ教育学会全国大会事務局

丹治朋子宛

〒270-1138 千葉県我孫子市下ヶ戸 1133

電話：04-7183-6421（研究室直通、FAX 兼用）

e-mail : taikai@jsthe.org

*電子メールでのお問い合わせが確実です。

【日本観光ホスピタリティ教育学会 2011 年度総会・講演会報告】

2011 年 6 月 18 日（土）、立教大学新座キャンパスにて、2011 年度総会・講演会、ワークショップおよび懇親会が開催され、会員・準会員 29 名を含む 44 名のご参加がありました。総会については、議案がすべて承認されました。総会欠席の皆様は同封の資料をご参照ください。

総会終了後、「社会人基礎力 その後 ～社会人基礎力をめぐり気づきから実践への流れが…～」と題した講演が行われ、法政大学大学院政策創造研究科教授の諏訪康雄氏にご登壇いただきました。諏訪氏は、経済産業省社会人基礎力に関する研究会の座長でもあり、同省が実施する社会人基礎力育成グランプリの審査委員長でもあります。以下に、講演の概要を紹介します。



諏訪康雄氏

社会人基礎力という概念は、テレビ番組の「初めてのお使い」から着想を得たものです。子どもがこれまでにない大きな責任を課され、目標を達成するために自ら考えて行動するというこの一連の要素は、社会人に必要不可欠であり、これが大学教育に不足しているのではないか、という思いからでした。

この社会人基礎力の基本要素は、「前に踏み出す力（アクション）」、「考え抜く力（シンキング）」、「チームで働く力（チームワーク）」の 3 つです。これは、米国の大学教育で重視される、①コミュニケーション能力、②組織能力、③リーダーシップ力、④論理力、⑤努力、⑥集団作業能力、⑦起業家精神の 7 つを再整理したものです。

これまでの大学教育は「知の管財人」であり、知識を身につけさせることに主眼が置かれていました。しかし、実社会では「知の創造人」であることが求められ、なにごとの小さな「工夫、応用、実践」が必要とされます。

教育にあたってこれらに留意すべきなのです。例えば、ボランティアは先に挙げた3つの基本要素をバランスよく向上させる有益な活動です。

社会人基礎力の養成は高等教育だけでなく、中等教育や新入社員教育にも活用されつつあります。実際に授業に導入するためには課題解決型の取り組みをもっと増やすことが大切で、学生が自ら課題に取り組み、個人作業だけでなくチームを組んでの作業を体験すべきです。そして、教員はコーチング、ファシリテーションに徹するのです。最初は教員も学生も戸惑いますが徐々に慣れていき、学生だけでなく教員も成長を実感することとなるでしょう。

続くワークショップの話題提供として、社会人基礎力育成グランプリ 2011 で準大賞を受賞した和歌山大学の学生チームを代表して西川昌克氏（出場当時は観光学部学生）と、指導教員の吉浦昌子氏（和歌山大学特任教員）から、「和歌山おもてなしブック」制作にあたっての社会人基礎力育成の事例を報告していただきました。

そして、ワークショップでは、「社会人基礎力育成の方法と実践」（モデレーター：浅岡柚美氏（中村学園大学）、小畑力人氏（和歌山大学）（2会場）と、「東日本大震災からの復興と観光ホスピタリティ教育」（モデレーター：鈴木勝氏（桜美林大学））をテーマに活発な意見交換が行われ、その結果を各モデレーターから報告していただきました。終了後には懇親会にて参加者同士の交流の場を持ちました。

【理事会報告】

<2011年度 第1回定例理事会>

(1) 日 時 2011年5月14日（土）13:05~15:35

(2) 場 所 立教大学池袋キャンパス13号館1階会議室

(3) 参加者 清水会長、鈴木副会長、村上副会長、安島理事、宍戸理事、丹治理事、中村理事、古本幹事
以上8名（委任状8通）

(4) 議 題

1) 第10回記念全国大会の評価と反省

大会関連の報告がなされ、内容や運営上の評価と反省が行われました。今大会は、過去最高の79名の参加があり、ワークショップの事例報告や大学等のパンフレット展示などに対して参加者からの評価が高かったため、いずれも当面の継続が決まりました。

2) 2011年度総会・講演会について

総会・講演会について内容及び運営体制について報告があり、検討されました。

3) 入退会審査

入会 [正会員] 梅津 和洋（文教大学非常勤）、館野 和子（東海大学）、鈴木 泰夫（帝京平成大学）、
杉浦 利成（愛知東邦大学）、朝倉 はるみ（財団法人日本交通公社）

[準会員] 今井 真貴子（同志社大学大学院）

退会申請なし

4) 編集委員会報告

機関誌第5号の納品予定、費用等について報告があり、第6号の編集予定が示されました。また、国立情

報学研究所 CiNii の還元金の金額と入金状況についての報告がありました。

5) 広報委員会報告

学会公式サイトにて、3月の大会で採択されたステートメントと、2011年度学会報第1号が公開されました。また、会員増強活動の一環として実施した、大学パンフレットに関するアンケートにご協力いただいた学校に礼状とともに集計結果を送付し、あわせて6月18日の講演会の告知を行いました。

6) 研究会について

2011年10月と2012年1月の研究会のテーマについて意見交換がなされ、継続審議となりました。

<2011年度 第2回定例理事会>

(1) 日 時 2011年6月18日(土) 12:20~13:10

(2) 場 所 立教大学新座キャンパス2号館N235教室

(3) 参加者 清水会長、鈴木副会長、村上副会長、豊川監事、小畑理事、安島理事、宍戸理事、福本理事、益山理事、丹治理事、中村理事、久保幹事、古本幹事 以上13名 (委任状3通)

(4) 議 題

1) 総会・講演会について

内容、オペレーション、予算の最終確認を行いました。

2) 総会議案について

内容及びオペレーションの最終確認を行いました。

3) 入退会審査

入会 [正会員] 安岡 宏樹、文室 聡子 (以上、アマデウス・ジャパン)、飯塚 真奈美 (ジャパンハーツ)、加藤 和英 (九州国際大学)、近藤 寛和 (宿屋大学)、小槻 文洋 (神戸夙川学院大学)、吉浦 昌子 (和歌山大学)

[準会員] 清水 達生 (帝京大学大学院)、中村 真人 (桜美林大学4年)、西川 昌克 (和歌山大学大学院)

退会 [正会員] 椎名 和男、投石 文子 [準会員] 中村 雅美

[特別会員] 東亜大学校

資格変更 [正会員→準会員] 丸山 政行 (大阪経済大学大学院)

4) 編集委員会報告

機関誌第5号の会員及び協力者への発送が完了したことで、第6号編集作業の予定について確認しました。

5) 研究会について

今年度第1回(10月22日)、第2回(2012年2月4日)の研究会の内容が決定されました。

<2011年度 第3回定例理事会>

(1) 日 時 2011年10月22日(土) 13:15~15:00

(2) 場 所 立教大学池袋キャンパス6号館3階第2会議室

(3) 参加者 清水会長、鈴木副会長、村上副会長、小畑理事、宍戸理事、福本理事、古本幹事

以上7名 (委任状9通)

(4) 議 題

1) 第 11 回全国大会について

企画案を確認した上で、東日本大震災が東北・関東の大学教育に及ぼしている影響について、ボランティア活動（単位認定制度も含む）、学事日程の変更、インターンシップ対応、海外研修への対応、学費減免などに関する意見交換を行いました（全国大会の概要は前述の通り）。

2) 入退会審査

入会 [正会員] 玉木栄一（浜松大学）

退会 [正会員] Lindsey Bridges、折戸晴雄

3) 役員改選について

次年度総会は役員改選期にあたるため、近日中に会長・副会長会議を開催して将来計画を検討した上で、1月に新役員の選考委員会を設置します。

4) 編集委員会報告

機関誌第6号の投稿原稿締め切りを12月13日（火）に延期します。

5) その他

事務局業務の一部を外部委託する件について検討されました（継続審議）。

▽ 会員数：正会員 138 名、準会員 12 名、特別会員 1 団体、名誉会員 2 名（2011 年 10 月 22 日現在）

▽ 次回の理事会は 2012 年 2 月 4 日（土） 13 時～15 時に開催予定。（立命館大学東京キャンパス）

【2011 年度 研究会報告とお知らせ】

2011 年 10 月 22 日の第 1 回研究会では、東日本大震災後の東北の状況について鈴木勝氏（桜美林大学）が報告しました。学生達の震災地域における研究活動が紹介され、その効果と課題が議論されました。

また、次回の第 2 回研究会では、東日本大震災後の大学運営、ならびに大学設置基準が機能しているのかについて、村上和夫氏（立教大学）が報告を行うことが決定されました。2012 年 2 月 4 日（土）15 時から、立命館大学東京キャンパス（東京駅八重洲北口より徒歩 5 分／新幹線日本橋口前、サピアタワー 8 階）で開催する予定です。詳細は、後日あらためてご案内いたします。

【観光学・観光教育に関する動向】

(1) 帝京大学：400 名近くが参加した被災地ボランティアツアー （編集人）

「東日本大震災に直面して、後期青年期にあたる学生たちは、これをどのように受け止めて、どのように克服していくべきか真剣に悩んでいるに違いない」そのような考えのもと、帝京大学（東京都・八王子市）では、学長・理事長から「学生が大震災について真摯に学ぶことができるような特別な教育プログラムの開発を」と観光経営学科のある経済学部へ検討要請がありました。

そこで企画されたのが、実際に現地に赴き、地域経済の活性化に貢献すると同時に、ボランティア活動を含

む学びの機会を加えたバスツアーでした。9月中旬に3泊4日の2つのコースが設定され、全学的に参加者を募ったところ約380名が参加しました。

現地で行われた講演会では、「被災地と周辺観光地の風評被害」や「震災復興と観光街づくり」などについて被災体験とともに伝えられました。また、ボランティア活動は、気仙沼市大島の菜の花畑の清掃活動と種まき、小学校校庭での泥かき、プール清掃や草むしりなど様々な活動を精力的に行われました。参加学生には、レポート提出や事前事後学習など所定の要件を満たすと、2単位が与えられます。参加者負担金3万円には、バス代、宿泊費、食事代、傷害保険加入代が含まれ、大学も費用の一部を負担しました。

参加学生の一人は「想像を絶する津波の怖さをあらためて知り、半年経っても何もない現地を視察して、自然の脅威と人間の無力さを感じた。でも、小学校での読み聞かせの際には、子どもたちの笑顔に希望がわいて、この子たちのためにも何か自分のできることをしていきたい。」と述べています。

この取り組みに対し、観光庁から「これからの時代を担う学生の皆様に、震災の被害を受けた地域を訪れていただくとともに、震災後の観光や地域経済等について様々な考えを深めていただくことは、観光庁としても意義深いことと考えています。」というコメントが寄せられました。

関連ウェブサイト URL

帝京大学経済学部 <http://www.teikyo-u.ac.jp/hachioji/faculty/economics/index.html>

観光庁 http://www.mlit.go.jp/kankocho/topics05_000041.html

(2) 杏林大学：観光交流文化学科の課外イベント (杏林大学 野口洋平)

杏林大学の観光交流文化学科は開設2年目を迎えました。外国語学部で観光系学科が設置されるという珍しさからか、学生募集において2年連続で入学定員(70名)を充足することができました。また、同じ理由からと思われるが女子学生が多いのが特徴です。

本学科では、学科の活性化、他大学との差別化、離学者(退学者)対策などを目的に、年間を通じて各種のイベントを実施しています。観光ホスピタリティ産業で求められる資質は多岐にわたりますが、イベントではそのうち特にコミュニケーション力、チームワーク、プレゼンテーション力を重視して設計しています。



写真1 フレッシュャーズ・キャンプでチームビルディングのプログラムに取り組む新入生

①フレッシュャーズ・キャンプ(4月)

入学直後に、山梨県・河口湖周辺の宿泊施設を利用して、1泊2日で友だちづくりや学びの動機付けを目的に「フレッシュャーズ・キャンプ」を実施します(本年度は震災の影響により学内で1日みの「フレッシュャーズ・プログラム」に変更)。その中で、専任教員と外部のファシリテーターを中心に、チームビルディングのプログラムを行います。

このイベントではピアサポートという考え方を導入し、新入生10名当たり1名の上級生をメンターとしてアルバイト雇用し、教員の補助や新入生のケアなどに当たらせていま

す。(写真1、2)

②ボーリング大会 (4月)

4月下旬には、ゼミナールの所属が決まった2年生を対象に、ゼミナール対抗ボーリング大会を実施します。ゼミ対抗戦にすることで、各ゼミナール内の団結力、全体として学科の一体感が高まります。

大会の幹事は毎年各ゼミの持ち回りで、予約や景品の準備、表彰式の運営など原則としてすべて学生が準備します。



写真2 フレッシュヤーズ・キャンプ2日目の昼食は1日目最後にランダムに振り分けられたグループでBBQ

③プレゼンテーションコンテスト (7月)

ゴールデンウィーク明けに、7月に行う「プレゼンテーションコンテスト」の準備が始まります。これは一定の条件を設定して各ゼミナールで旅行商品企画(受注型企画旅行商品)を行い、7月末のオープンキャンパスのコンテンツのひとつとして審査会を行うものです。当日は旅行会社の現役社員の方に審査をお願いしています。今年のテーマはある架空の高等学校の同窓会を設定し、喜寿のお祝い旅行の企画提案でした。昨年は架空の企業を設定し、年齢や性別が多様な職場旅行の企画提案でした。(写真3、4)



写真3 プレゼンテーションコンテストにはオープンキャンパスに参加した高校生の姿も

④観光屋台村コンペ (10月・学園祭)

プレゼンテーションコンテストと平行して準備が始まるのが10月の学園祭での屋台です。各ゼミナールの屋台を集中出店し「観光屋台村」と名付けられています。このイベントでは、ゼミナール対抗で売上等の複数の経営指標で競い、チームワークとともに学生たちが経営的視点を持つことを期待しています。

毎年異なったテーマが設定されており、今年は「がんばろう東北」、昨年は「世界のおやつ」でした。



写真4 各ゼミナールから提出された旅行パンフレット

⑤ゼミナール合同懇親会 (12月)

12月には、2~4年生を対象に「観光屋台村」コンペの結果発表・表彰式を兼ねた学科の懇親会を学食で行います。幹事のゼミナールがビンゴゲームなどを用意し盛り上げてくれます。

年間を通じてゼミナール対抗のイベントが多いですが、この日はゼミナールや学年の違いを超えての交流が行われます。

⑥「基礎演習」課題発表会（1月）

1月には、1年次の「基礎演習」（導入教育を目的とした少人数授業）の課題発表会を保護者・保証人を招待して行います。学生たちに与えられている課題テーマは「観光交流文化学科のオープンキャンパス企画」です。上級生を審査員として、4クラスで各クラス4チームの16チームの中からもっとも優秀なチームを選出して表彰します。

以上のような各種イベントの実施には、教員間の連携体制、学生の積極的な取り組み、学外の協力者が不可欠です。全体として大きな手間がかかりますが、活気のある学科づくりには一定の効果があると考えています。

機関誌『観光ホスピタリティ教育』第6号

投稿締め切り延長のお知らせ

学会公式サイトにてお知らせしております通り、機関誌第6号の投稿原稿（論文・研究ノート・教育実践報告）の締め切りを延長いたしました。

投稿をされる方は、**2011年12月13日（水）**〔消印有効〕までに、「投稿申込書」1部ならびに「審査用原稿」3部をご投函ください。送付先は下記のとおりです。投稿や原稿執筆、審査のルール等の詳細は、学会ウェブサイト（<http://jsthe.org>）に掲載されております「編集規定」「投稿規定」「執筆要項」「審査規定」をご確認ください。

[送付先] 〒192-0393 東京都八王子市大塚 359 帝京大学経済学部白坂研究室気付

日本観光ホスピタリティ教育学会 編集委員会 宛

▽ 本件についてのお問い合わせ：編集委員会事務局 中村哲（玉川大学）

nakamura@bus.tamagawa.ac.jp

会報では、会員の皆様から提供された観光ホスピタリティ教育の情報及び書籍紹介を掲載しております。書籍紹介は、原則として本学会会員が執筆した発行から2年以内の書籍（定期刊行物を除く）を扱います。ぜひ、情報を編集人までお寄せ下さい。ご協力をお願い申し上げます。

(E-Mail : tantomo@gmail.com、FAX 04-7183-6421 丹治朋子（川村学園女子大学）)